
World of Fantasy 改訂版

K_Sayuto

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

World of Fantasy 改訂版

【NZコード】

N7775Y

【作者名】

K_Sayuto

【あらすじ】

謎の大量失踪事件

その背景にあるものとは？

地球と異世界、敵と味方、疑いと信頼。 それぞれの思いを載せたFantasyが動き出す。

プロローグ

—友人の失踪—

それまではただそれだけの事件であった。

—さらなる失踪—

そこで、何か集団的な組織が動いているのでは?と言つ噂が流れ るようになつた。

—共通点—

失踪した人たちの共通点が見つかった。だがそれはとても信じ難い事だった。皆があるオンラインゲームやつていた、ただそれだけの事だった。

「なあなあ、あの噂聞いたかかみにやん」

下校途中と思しき一人の制服に身を包んだ男が歩いていて片方が先に口を開いた。

「えー、しらなーい」

「ほらあの失踪事件だよ」

「あー、あれかあ。あれがどうしたのさ?」

「俺たちもやつて見ない?」

「いいんじやない

「おっしゃ、じやあ帰つたらすぐスカ プ繫いでくれよな

そしてソラ路で別れた。

登場人物

ショウ・伊志井 将

今作の主人公、高校一年生。玲奈の事が好きだが告白などした事はない。オカルトや魔術が好きだったので魔法関連のジョブについてする。

かみにゃん・桂峰 神紅

ショウの親友、同じく高校一年生。剣術には心得があったので「V」があまり関係のないW.O.F内では相当な強さをほこる。

ティア・桜ヶ丘 知

いわゆるネカマだったのだが、W.O.Fの世界に入ってしまい、使っていた口リキキャラになってしまった。

ユーキ・佐藤 勇季

ショウの友達、同じく高校一年生。

レーナ・阿久津 玲奈

ショウの友達、同じく高校一年生。実はレーナもショウの事を思つていたり。

第一話 パーティー結成

その時はまだ信じられなかつた。LVが5に達した時に俺が持つていたはずのマウスは杖に変わり制服はローブに変わりPCの画面に広がつていた世界は今自分の周りに広がつている。

「は？」

第一声はそれであつた。

「やれやれ本当にこんな事になるなんてなあ」

容姿は確かに変わつていたが頭の上に表示されたキャラネームは『かみにゃん』だつた。

「かみ・・・にゃん？」

「あつ、シヨウ」

と不意に後ろから誰かの叫び声が聞こえた。

「な、なんじゃこりゃー」

その声は幼げなソプラノボイスだつた。声の主を見ると先ほど出会つて一緒にいた幼じ、げふんげふん、小さな女の子がいた。

「ティアさん？」

暫くその女の子は放心していた。しかし、突然はつと意識が戻つ

たよつで急にこんな事を言い始めた。

「ほんなん幼女じゃハーレムなんて作れねえよー」

セイで俺は気がついた。

「あのーティアさんはもしかして中身男ですか?」

「えつ、いやそんな事ありませんよ。お、わ、私は中の人も女ですか?」

「今俺つてこいつとしたよなんかみにゃん?」

俺が問いかけると。

「ちうだなあーショウ」

セイでティアは認めたのか。

「あーちうだよネカマだよ今じや男の娘だよ悪かったかー

「まあ、いいんじゃないのか?」

とかみにゃんが言つて俺も肯定しておいた。

「ち、ちうだ今なら女のアレが好き放題触れるじゃんか

そういうヒーリングアートは胸に手を当てるがセイは断崖絶壁が広がっていた。

「そ、そんな。うそだあー」

「とりあえず、ティアとかみにゃん一皿につかないといこに行こつ

「んー、僕も賛成」

ティアはまた放心していた。俺たちは急いで一皿につかないこところへ逃げ込んだそこは小さな洞窟だつた。

「ん、あの奥にいる人誰だろ?」

かみにゃんが気がつき俺も気がついた。とりあえずティアはそらへんにおいておいた。

少しづつ近付いて行くと、その人の頭の上にあるキャラクターネームが見えた。

「『ゴーキ』ってまさかあのゴーキ?」

そこまで俺が言つたといふで、後ろから誰かの声が聞こえた。

「ああ、追い詰めたわよさあそつそと降参しなさい」

と女の人気が入つてくるがこつちを見て驚愕きよくがくした。

「え、ショウとかみにゃんつてまさか?」

「だ、誰だッ!」

俺が叫ぶと、その人は答えた。

「私だよ阿久津 玲奈だよ」

「れつ、玲奈さんー？」

俺が驚きの声を上げるとコーラキが目を覚ました。

「いてて、わざい取り逃がした。ん、ここいつらは？」

「お前見て気がつかないかなあ？」

「ああ、お前らもか。悪いけど肩かしてくれないかショウ」

「ああ、お前やっぱ秋季か？」

「そーだ、そーだ、クリームソーダ」

・・・・・、多分今ので体感温度5度くらい下がったかな？

「そう言えば、そのティアってひとほどなた？」

そう聞いた時、ティアは焦っていた。しじみがない、助け舟を出してやるか。

「えつとな、こいつは先ほど出合つた女の子だ。どうやら何かの事故で記憶を失つたらしいんだ。だから今はなんもわからないからレーナさんから教えてやつてくれないかなあ？」

俺がそう言つとティアは小声で

「何でそんな設定なんだよ」

「そっちの方がいいだろ、過去とかいろいろ詮索されずに済むし第一、お前は元男なんだから女の子の事を知らないんだからそれを隠すためもある、後これからは男口調を絶対使うな」

そう言つて俺たちがコンコン話していくのを見たレーナさんは口を開いた。

「なーに、コンソやつてんだかまあいいけど。とにかく、一応聞いておくけど、これから私たち仲間になるのよね?」

「まあ、そりや一緒にの方が安全だろ?しねえー」

今まで黙つていたかみにやんが話す。

「でも、幸いな事にこの世界は「^{レーナー}」はあまり関係ないから装備と個々の能力、それにジョブとコンビネーションをえしつかりしてれば何とかなる。っと、もう大丈夫だ一人で立てる」

「えーと、とりあえずみんなのジョブをまずは聞いておかなくちやだね。私は魔銃士^{マジックガンナー}でヨーキは魔法戦士^{マジックナイター}だよシヨウ達は?」

「俺は、とりあえずは治療師でかみにやんはサムライでティアは^{レーナー}・・・なに?」

「えっと、お、私は・・・何だら?」

「ポケットに携帯入つてない?」この世界ではじりやり携帯がウインドウの代わりになつてゐるから

「あつ、ほんとだ」

ティアがポケットから出した手に握られていたのはスマートフォンだった、いわゆるスマホだね。

「ええと、きつ・・・・・わき・・・・・し、霧裂師だー。」

「……」

「嘘だろ、霧裂師つてスーパー・レア・ジョブで100億人に1人出るかどうかってジョブだろ」

「そういう言えばユーキとレーナさんはこの世界に詳しいみたいだけどどうして？」

「ああ、それはだな」

「いい、私から話す。この世界はW.O.Tとほぼ同じ世界、といつかほとんどの事が全く一緒なんだけど少し違つ世界なの」

なるほど、それでわざわざまでいろいろ知つてゐるような口ぶりだったのか。

「じゃあ、俺たちが持つてる知識でもある程度はもう通用するつて訳か」

「そうそう、それで・・・・・。続きは宿屋でしまじょ」

そうレーナさんが言つた後に当たりを見渡すとティアとかみにま

んは寝ていた、しかもかみにせんせ立ちながら。

「それもそうだな、ティアはレーナさんが頼む、ショウはかみにせんせたのむ」

やう言つてユーリは立ち上がり歩いて行った。俺たちもその後を追いかける。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7775y/>

World of Fantasy 改訂版

2011年11月23日19時52分発行